今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇1月22日～

今週は日銀金融政策決定会合があります。
元旦の地震の影響で、政策変更に動く可能性はほとんどなくなってきているため金融緩和継続となれば円安、株高がさらに進む可能性もあります。
日経平均は先週も高値更新の動きが続き、勢いはまだ弱まっていません。
ただし、過熱感がでてきているため悪い材料で一気に急落という動きにも警戒しておいた方がよさそうです。
今回、政策変更はなくても植田総裁の発言次第では、大きく相場が動く可能性もあり、注意がいります。3 月、4 月に何か動きが出そうかどうか植田総裁の発言から判断しないといけません。
欧米に比べて、日本の金融政策に関する言及はわかりにくい表現を使う場合が多く、想定以上に海外勢が動揺してマーケットが大きく動くということが過去にもあったので、今週はポジション少なめで臨機応変に動ける状態にしておく方が安全です。
そして、今週は米国で重要指標の発表が続くので、指標発表後に動きが出る可能性があります。
米国と欧州は、今年利下げに動くとの予想が多いですが時期はまだわからず、マーケットと中央銀行で見通しにズレがあります。
今週は欧州でも金融政策の発表があるので、ラガルドECB総裁の発言にも注意したいです。
欧州は米国に比べると実体経済が悪く、早期利下げの声も出ています。
欧米のインフレはおさまりつつありますが早期利下げに動くとインフレ再燃のリスクもあります。
ほとんどの先進国では、すでに利上げは終了し、金利据え置きで様子見状態に入っています。
米国が利下げに動くと他の国も利下げに動きやすくなります。
今までは各国が利上げをする中で日本だけが金利を上げることができず、このことが円安要因となっていましたが今年、各国が利下げに動き始めると今度は円高要因となってくる可能性があります。
今年は、各国の金融政策が変更される可能性が高いため大きな流れに変化が起こるかもしれないと考えながら、中長期的な動きに変化はないか確認しながらトレードしていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

先週は、148 円台後半まで値を伸ばし、148 円台を維持したままマーケットは終わっています。
149 円台前半に抵抗があるので、ここを超えることができるかどうかに注目したいです。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

149.5円を超えてくると再度151円を目指す可能性が出てきます。
ただし、高値圏にきているため150円超での買いはリスクが高そうです。
年初から続いている上昇トレンドは継続中で、下値が146円台を維持している間は堅調な動きが続きそうです。
下値は146円を割り込んでくると144円台あたりまでの下げは想定した方がよさそうです。
高値圏に来ると急落した時の値幅も大きくスピードも速くなってくるので、リスク管理はいつも以上に慎重にしておきたいです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も先週は上昇しているペアが多く、週明けも上昇の流れが続くかどうかに注目です。
ポンド、カナダドルは、昨年つけた高値あたりまで上昇してきているので、高値更新していくかどうかも見ていきたいです。
ユーロも再び160円を超えてきています。162円を超えてくると昨年11月高値の164円台をトライする動きが出そうです。
クロス円は株価に連動しやすいため株が下げ出したら、年初からの上昇トレンドが崩れてくる可能性もあるためチャートもしっかりチェックしておきたいです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では日銀金融政策決定会合、日銀展望レポート、植田・日銀総裁定例会見、12月貿易統計、1月東京都区部消費者物価指数、日銀・金融政策決定会合議事要旨などがあります。
米国では12月景気先行指標総合指数、1月リッチモンド連銀製造業指数、1月製造業・サービス部門・総合PMI（速報値）、10－12月期GDP（速報値）、12月耐久財受注、前週分新規失業保険申請件数、12月新築住宅販売件数、12月個人消費支出（PCEデフレーター）、12月住宅販売保留指数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで1月製造業・サービス業PMI（速報値）、ユーロ圏でECB政策金利発表、ラガルド・ECB総裁定例会見、ドイツで1月IFO企業景況感指数などがあります。
ほかにはカナダ、南アフリカ、トルコで政策金利、英国で1月製造業・サービス業PMI（速報値）の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved